嵯峨ノ産ハ蓋薄シ、此地ニ四品アリ、上品ヲ臥釋迦ト云、莖極テ粗大、地中ニ蟠屈シテ横斜ニ突出ス、色潔白香氣多ク、味脆ク美ナリ、次ヲウヅラダケト云、松皮ノ鱗甲ノ如ク、蓋上處處突起シテ周邊白ク缺刻アリ、皮ニ斑アリテ鶉羽ニ似タリ、次ヲトラフト云、白褐赤ノ横紋相雜ル、次ハ尋常ノ品ナリ、西賀茂ノ産ハ嵯峨ト同クシテ柔ナリ、松尾ノ産ハ色赤ヲ帶テ厚ク堅シ、

〔拾遺和歌集七物名〕まつたけ　すけみ

あし曳の山したぬれにけりその火まつたけ衣あぶらん

いとへどもつらきかたみを見る時はまつたけからぬねこそなかるれ

〔類聚雜要抄〕一宇治平等院御幸御膳元永元年九月廿四日、大殿被下御日記定○中略

御汁物二度寒汁松茸

〔散木弃詞集九雜〕田上にて物いひけるついでに、松だけの有けるを、をそくやくなどいひけるを聞てよめる、

ほどもなく取いだせとや思ふべき松と竹とは久しき物を

〔勘仲記〕建治二年九月六日丁酉、參大宮殿依召也、興福寺三綱參仕爲申次也、但予○藤原兼仲遲參不及申次、予師顯等拜領松茸也、懷中退出、

〔殿中申次記〕八月

一松茸　一折　例年進上之　大光明寺○中略

何も式日は不定

〔後深心院關白記〕貞治六年九月十日甲申、松茸進內裏、納小長櫃二合、自故殿御時年々進之、又二合遣武家、自去年遣之、七年○應安元年九月六日甲辰、進松茸於內裏如例年、又遣武家、此兩三年遣之也、七日乙巳、松茸二合小長櫃遣武藏守賴之許、以媒介之仁傳遣之也、相副書狀也、